

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473000865	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成16年10月1日
法人名	社会福祉法人徳寿会		
事業所名	グループホーム晃風園		
所在地	(242-0012) 神奈川県大和市深見東3-2-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年3月6日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「よりその人らしい」を事業目標、理念に掲げておりご利用者様一人ひとりに寄り添い安心・安全でホットするアットホームな生活環境を提供すると共にご利用者様の自立支援にも力を入れて取り組んで行く。何でも出来る所から始め、失敗を恐れないチャレンジ精神をモットーにトライして頂く。認知症の方の立場に立ち物事を考えられる様に認知症の理解を深める。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年3月19日	評価機関 評価決定日	令和7年4月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急線「大和」駅西口より神奈川中央交通バス「鶴間駅東口（一関経由）」行きに乗車し、「島津入口」で下車、徒歩5分の住宅地域の一角にあります。建物は木造2階建てで、居室はすべて南向きとなっています。同一法人が運営するデイサービス事業所が隣接しています。

<優れている点>

自治会の夏祭りや清掃活動、お花見会、節分、七夕、秋のドライブ、クリスマス会、カラオケなど季節に応じたホームでのイベントの開催に加え、深見地区の同一法人の施設で開催している「深見まつり」などに参加し、地域とのつきあいやイベントを通じて、笑顔で生き生きとしたアットホームな生活を目指しています。運営推進会議には大和市の介護保険課職員や地域包括支援センター職員が交互に参加しており、ホームの活動状況を伝えると共に意見交換や地域の情報交換の場として活用しホームの運営に役立てています。

<工夫点>

ケアサービスの方針はチームケアで、職員一人ひとりが利用者の状態把握に努めて対応しています。居室担当を決めて、居室内の清掃や整理整頓を支援したり、毎月利用者のホームでの暮らしぶり、健康状況、医療面での対応などについて手紙で利用者家族などに伝え、近況を把握できるよう工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム晃風園
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念は出来ているが作り変えてない。理念の共有は出来ているが、なかなか実践につなげ難いが努力している。	笑顔で生き生きしたアットホームな空間づくりを心がけ、ホームの理念「よりその人らしい生活を送る」ことを掲げています。職員の退職が続き短期間の雇用職員の補充で対応してきましたが、4月に法人からベテラン職員を補充し、継続した理念の実践につなげていく方針です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以降なかなか地域との交流を図る機会が少なくなっていたが、日常的とは言えないが少しずつ自治会のイベントに参加したり、回覧板をまわしたりと交流している。	コロナ禍で中断していた地域との交流を徐々に再開しています。島津自治会の夏祭りで盆踊りをしたり、毎週町内会の清掃に参加したり、地域の阿波踊り振興会が主催している「ぞめき大和」の公演を鑑賞するなど地域との輪を広げるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての認知症の人の理解や支援の方法など活かしきれていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月毎に開催し、サービス状況や取り組みなど報告し、意見交換しサービス向上に反映出来るよう努めている。	運営推進会議には自治会々長をはじめ民生委員、社会福祉協議会顧問の地域住民に加え、大和市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員が交互に参加しています。ホームの活動状況を伝えて意見交換したり、地域の情報交換をして運営に活かしています。	コロナなどの感染状況も落ち着いてきたことから、家族への会議参加を呼びかけていくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議などで市町村担当者へ利用者の暮らしぶり等、具体的に伝えていく。また、認定更新時などにも連携を図っている。	大和市高齢福祉課職員は定期的にホームの運営推進会議に参加しており、会議の議事録も提出しています。ホームの認定更新などの行政手続きも円滑に連携できています。事故報告もアドバイスを受けながら作成し、必要な再発防止に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	当施設では身体拘束をしないと掲げている。また、定期的に委員会や研修を行い、職員の意識付けをしている。	法人などを含め身体拘束適正化委員会を定期的実施し、「身体拘束0ゼロ」の方針を職員に周知しています。常勤職員は法人の「晃風園スクール」に参加し、身体拘束・虐待防止の研修を受講しているほか、全職員に対して動画視聴による研修を実施し身体拘束をしない意識づけに取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修や委員会での内容を周知し、防止に努めている。	虐待防止については、全職員を対象に年1回虐待の芽チェックリストを活用し、虐待の防止や予防、不適切な要因の特定に努めています。人員体制がタイトな状況が続く、委員会では、全職員の虐待など不適切なケアに関する知識や理解を深めるための研修が十分ではないと認識しています。	全職員を対象にした虐待防止の研修を実施し、研修後の理解度についてフィードバック体制を整えることが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について学ぶ機会は少ないが研修等を行い、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に管理者が契約を行い利用者や家族へ説明している。また、家族からの質問に対し、適切に返答出来るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等の意見を反映出来ていない部分があるが、傾聴し、上司へ伝えるようにしている。	家族などの来訪の機会や電話での連絡時などを捉えて家族などからの意見・要望などを聞いています。サービスに関する相談や苦情については管理者が窓口になっているほか、大和市介護保険課などにも受け付けできる体制です。コロナ禍で中断した外出などの希望があり、徐々に再開しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する意見など職員より提案を聴く機会を設けているが、代表者まで意見が届かず反映させ難い。	職員からの運営などに関する意見は全体会議やシフトで現場に入った時などの機会を捉え聞いています。職員の退職に伴う人員の補充について速やかに採用することが強く望まれており、法人に採用申請をしています。採用環境が厳しく人員手当に時間を要していますが、法人からはベテラン職員の異動が予定されています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業環境の整備に努めているが、課題があり改善に取り組んでいるが、働き易い職場になっていないと思う。	毎月の勤務シフトは各フロアリーダーが事前に休暇の取得希望を聞いて反映しています。残業の負担が少ないよう配慮していますが、日勤帯の要員を確保するため、法人グループ内の他の事業所から短期間の応援を受けて対応し、管理者も一部夜勤を担っています。	職員の退職に伴う人員の補充に時間を要しており、一時的に人員体制がタイトな状況となっています。4月以降ベテラン職員の転入が予定されており、安定した人員体制の構築が期待されます。
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりのケアの力量向上のための法人内研修を受ける機会を設けているが、活かされているように感じない。	法人が集中講義形式で毎月実施している「晃風園スクール」では感染症、リスクマネジメント、接遇、理念、身体拘束・虐待防止について取り上げ、常勤職員が輪番で参加しています。さらに全体会議で振り返りや資料の読み合わせを行い、全職員に浸透するよう努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流はほとんど無く、グループホーム連絡会が機能しているか分からない。法人内の他事業者との人事交流研修を行いサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員同士、情報共有をしながら関係作りに努めている。また、困っている事や不安に思っている事に関して傾聴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の困り事や不安に思っている事や要望を聞き取りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを利用する前に事前面接を行い必要とするサービスを見極めたり、家族と連絡を取りながら必要な支援を伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員として一方的な介護にならないように密にコミュニケーションを図り関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とも相談したり、電話連絡や毎月のお手紙等を通じて、本人と家族の絆が途切れないように配慮している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染のピーク時はなかなか面会等制限していたが、少しずつ再開し、関係が途切れないように配慮している。	コロナ禍では面会を中断していましたが、現在は家族や来訪者には検温とマスク着用で居室で面会しています。家族との外出は人ごみを避けてもらうよう依頼しています。外食については毎月末に出前を希望する利用者手配し、食事を楽しんでもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の様子を見ながら孤立しないように支援するよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してしまうと経過フォローが難しいが必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望や意向を確認しながら、会議等で情報共有し、配慮している。	フロア会議で聞き取りした利用者の意向や思いを情報共有しています。入浴時、リラックスしている時に話しかけながら家族と外出したいという要望を聞き、家族に連絡を取り実現したり、ゲームの好きな利用者には隣接するデイサービス事業所に行き、将棋をしたりして楽しめるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から聞き取りを行い、生活歴など確認し、サービスに活かせるよう配慮しつつ生活環境の大きな変化にならないよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムや一人ひとりのADLを確認し体調の変化等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネを中心として介護計画の見直しに行くよう働きかけている。	ケアプランの短期目標は6ヶ月ごと、長期目標は1年ごとにモニタリングを行い、プランを更新しています。面会時や電話で聴取した家族の意見として、シルバーカーの導入やとろみ剤の使用などをプランに位置付けています。医師や看護師の意見は受診時に聞き取り、心身状態に沿ったプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に関して抜けてしまう所はあるが、職員間の情報共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状況や状態に合わせたケアが行えるようにその都度、相談しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事を通して利用者の方と地域の方との交流を持てるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日常での気づきを看護師へ報告し、また医者との連携を図り、適切な医療が受けれるように支援している。	かかりつけ医は本人や家族が選択しており、入居前からの訪問診療医院を継続利用している人も含めて、全員がかかりつけ医の訪問診療を受けています。訪問日前に日頃の利用者状態をファックス送信にて共有し、受診内容は家族に電話や毎月の「お手紙」で伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の利用者の状態の情報共有し、適切に医療や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際の病院との情報共有し、関係を構築している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際や終末期について家族と相談し、適切な対応している。	契約時に看取り対応を行っていない旨について、事業所としてできること、できないことを説明し、家族の理解を得ています。状況変化の都度本人や家族の意向を基に話し合い、特別養護老人ホームなどの入所申し込みや入所までのケアの方向性を再確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いざという時に備えて、救急法の研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施しているが、地域との協力体制が不十分である。	昼夜の時間帯での火事と地震の想定で、年2回避難訓練を行っています。消防署指導のもと消火器使用訓練もしています。BCP(業務継続計画)に則り、食料と飲料水の備蓄リストを作成し、賞味期限を管理しています。今後、運営推進会議で避難訓練への地域住民参加を依頼し、災害時の協力体制を築きたいと考えています。	事業所からは地域の防災訓練に参加しています。今後は地域の事業所訓練への参加を実現するなど、協力体制の一步前進が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格の尊重やプライバシー確保の為に研修を行い、職員一人ひとりが思いやりのある対応をしている。	利用者のトイレでは少し離れて待つ、脱衣室ではバスタオルを羽織ってもらうなど、細やかな配慮をしています。利用者が介護を拒否した場合には無理強いすることなく、言葉を変えたり、一旦その場を離れたりと、利用者の気持ちに寄り添って支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や思いを聞き、自己決定出来るように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側が優先せず、利用者のペースを見極めながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みを確認しながら支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒におかずの盛り付けや食器拭き等行っている。	朝食は野菜類を調理し、夕食は冷凍品の湯煎で効率化を図っています。昼食には同一法人の特別養護老人ホームのランチや配食サービスの弁当を利用して、日々の食事に変化を持たせています。正月はお節料理で気分を改め、きりたんぼ鍋を皆で楽しんでいます。利用者の誕生日にはイベント担当職員がケーキを手作りしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた食事を提供している。水分摂取の少ない方には飲んで頂くよう声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には口腔ケアを行っている。また歯科往診も活用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	本人のタイミングを計ったりご自身で排泄出来るよう配慮したり、ポータブルトイレの活用したりしている。	タブレット入力と手書きにより介護記録を作成し、排泄記録表を基にタイミングを見計らって、トイレへ誘導しています。日中はリハビリパンツとパットを着用することで、トイレでの排泄をスムーズに行えるように支援しています。利用者個々に見合った排泄用品の大きさや型、用途などを、ユニット会議で共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認を行い、水分摂取を促したり、軽い運動や体操を促し、予防に努めているが、下剤も私用する事がある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望に合わせるのは難しいが、ゆったりと入浴出来るように支援している。	週2回、日中の時間帯が基本ですが、利用者の体調や気分によっては時間をずらして対応しています。同性介助の希望に応じています。浴槽のまたぎ越しが難しい場合はシャワー浴で介助しています。冬至には職員が自宅で実ったゆずを持ち込み、ゆず湯で季節を感じられるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人の日中の過ごし方を工夫し、休息や安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬はその方にとって大事な物であり、命に関わる物であるので、症状の変化や必要に応じて医療との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	盛り付けや洗濯物たたみや食器拭くやレク等を通し、無理の無いよう行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	暖かい日など園の周辺を散策したり、園庭にて外気浴や洗濯物干しなど行っている。	天気の良い日は事業所周辺を5、6分散歩したり、ウッドデッキで外気浴をする機会を設けています。自治会や法人が主催する季節の祭りや阿波踊りイベントで賑わいを楽しんだり、童謡の会への招待を受けて懐かしい音楽に浸るなど、気持ちのリフレッシュが図られています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の希望に出来るだけ添い職員と一緒に買い物へ出掛けたりしている。お金の所持は難しい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次いだり、また家族へ電話したり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々の掃除や片付けにより居心地の良い共用空間を提供している。	夏になると1階リビングのウッドデッキから、ミニ農園で成長する野菜を見る事ができます。2階リビングには吹き抜けがあり、明るく開放的な空間となっています。感染症対策として屋内消毒と定时換気を継続しています。廊下の壁には、利用者と職員が合作した貼り絵が所狭しと飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	危険のない範囲ないで個々のペースで過ごせる居場所を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前にご自宅で使用されていたなじみの家具等持参して頂き、居心地良くお過ごし頂けるように工夫している。	一日の大半をリビングで過ごした後、利用者は居室で思い思いに過ごしています。刺激を減らしたシンプルな居室や、家族との夕食の写真を貼った居室などです。持ち込み品には、家族写真や書籍、テレビ、タンス、仏壇などがあります。居室担当者は利用者と共に掃除や衣替えを行い、毎月家族へ「お手紙」で利用者の状況を伝えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	常に危険な所が無いかが気を張り、安心して暮らせるように工夫している。		

事業所名	グループホーム晃風園
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまにある
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまに
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3, あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念は出来ているが作り変えてない。理念の共有は出来ているが、なかなか実践につなげ難いが努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以降なかなか地域との交流を図る機会が少なくなっていたが、日常的とは言えないが少しずつ自治会のイベントに参加したり、回覧板をまわしたりと交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々に向けての認知症の人の理解や支援の方法など活かしきれていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月毎に開催し、サービス状況や取組みなど報告し、意見交換しサービス向上に反映出来るよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議などで市町村担当者へ利用者の暮らしぶり等、具体的に伝えている。また、認定更新時などにも連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	当施設では身体拘束をしないと掲げている。また、定期的に委員会や研修を行い、職員の意識付けをしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修や委員会での内容を周知し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について学ぶ機会は少ないが研修等を行い、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	主に管理者が契約を行い利用者や家族へ説明している。また、家族からの質問に対し、適切に返答出来るように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等の意見を反映出来ていない部分があるが、傾聴し、上司へ伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する意見など職員より提案を聴く機会を設けているが、代表者まで意見が届かず反映させ難い。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業環境の整備に努めているが、課題があり改善に取り組んでいるが、働き易い職場になっていないと思う。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりのケアの力量向上のための法人内研修を受ける機会を設けているが、活かされているように感じない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流はほとんど無く、グループホーム連絡会が機能しているか分からない。法人内の他事業者との人事交流研修を行いサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員同士、情報共有をしながら関係作りに努めている。また、困っている事や不安に思っている事に関して傾聴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の困り事や不安に思っている事や要望を聞き取りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを利用する前に事前面接を行い必要とするサービスを見極めたり、家族と連絡を取りながら必要な支援を伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員として一方的な介護にならないように密にコミュニケーションを図り関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とも相談したり、電話連絡や毎月のお手紙等を通じて、本人と家族の絆が途切れないように配慮している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染のピーク時はなかなか面会等制限していたが、少しずつ再開し、関係が途切れないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の様子を見ながら孤立しないように支援するよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してしまうと経過フォローが難しいが必要に応じて対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望や意向を確認しながら、会議等で情報共有し、配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から聞き取りを行い、生活歴など確認し、サービスに活かせるよう配慮しつつ生活環境の大きな変化にならないよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムや一人ひとりのADLを確認し体調の変化等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネを中心として介護計画の見直しに行くよう働きかけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に関して抜けてしまう所はあるが、職員間の情報共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状況や状態に合わせたケアが行えるようにその都度、相談しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事を通して利用者の方と地域の方との交流を持てるようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日常での気づきを看護師へ報告し、また医者との連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の利用者の状態の情報共有し、適切に医療や看護を受けれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際の病院との情報共有し、関係を構築している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した際や終末期について家族と相談し、適切な対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いざという時に備えて、救急法の研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施しているが、地域との協力体制が不十分である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格の尊重やプライバシー確保の為の研修を行い、職員一人ひとりが思いやりのある対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や思いを聞き、自己決定出来るように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側が優先せず、利用者のペースを見極めながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みを確認しながら支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒におかずの盛り付けや食器拭き等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた食事を提供している。水分摂取の少ない方には飲んで頂くよう声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には口腔ケアを行っている。また歯科往診も活用している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	本人のタイミングを計ったりご自身で排泄出来るよう配慮したり、ポータブルトイレの活用したりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認を行い、水分摂取を促したり、軽い運動や体操を促し、予防に努めているが、下剤も私用する事がある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望に合わせるのは難しいが、ゆったりと入浴出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個人の日中の過ごし方を工夫し、休息や安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬はその方にとって大事な物であり、命に関わる物であるので、症状の変化や必要に応じて医療との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	盛り付けや洗濯物たたみや食器拭くやレク等を通し、無理の無いよう行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	暖かい日など園の周辺を散策したり、園庭にて外気浴や洗濯物干しなど行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の希望に出来るだけ添い職員と一緒に買い物へ出掛けたりしている。お金の所持は難しい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次いだり、また家族へ電話したり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々の掃除や片付けにより居心地の良い共用空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	危険のない範囲ないで個々のペースで過ごせる居場所を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前にご自宅で使用されていたなじみの家具等持参して頂き、居心地良くお過ごし頂けるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	常に危険な所が無いか気を気張り、安心して暮らせるように工夫している。		

2024年度

事業所名 グループホーム晃風園

作成日： 2025年 5月 19日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナなどの感染状況も落ち着いて来た事から、家族への会議参加を呼び掛けて行く。	ご家族に参加して頂く事で、グループホームの活動状況やご利用者様の生活状況を知って頂く。	会議の開催月のご家族への手紙を送付する際に、会議の開催案内を同封し、出席を依頼して行く。	3ヶ月
2	6	全職員を対象とした虐待防止の研修を実施し、研修後の理解度についてフィードバック体制を整える。	定期的に虐待防止の研修を行い、全職員に意識付けして行く。	虐待防止委員メンバーを中心に研修を行い、その都度振り返りを行う。	6ヶ月
3	9	職員の退職に伴う人員の補充に時間を要しており、一時的に人員体制がタイトな状況となっています。4月以降ベテラン職員の転入が予定されており安帝した人員体制の構築を行う。	働き易い環境について全職員と話し合いを行う。	働き易い環境にする為に、業務の見直しを全職員と話し合いを行いながら進めて行く。	6ヶ月
4	16	事業所からは地域防災訓練に参加しています。今後は地域の事業所訓練へ参加を実現するなど協力体制を作る。	事業所訓練に参加して頂く事で協力体制を構築する。	施設にて防災訓練をする際の、地域の方に実施日をお知らせして参加を依頼して行く。	6ヶ月
5					ヶ月